

平成 12 年度第 3 回清掃審議会第二分科会記録

日 時	平成 13 年 5 月 28 日 (月) 午後 3 時 30 分 ~ 午後 5 時 30 分
場 所	区役所西棟 10 階 A ・ B 会議室
出 席 者	前田座長、石川委員、大高委員、大橋委員、くれまつ委員、小池委員、 内藤委員
欠 席 者	吉田委員
議 題	(1) 中間処理施設のあり方 (2) プラスチック処理のあり方
発言要旨	別紙のとおり

平成 13 年 5 月 28 日 (月)

杉並区清掃審議会 第 3 回第二分科会

座長 配布資料に基づき杉並区清掃審議会の経過について説明。(省略)

プラスチック分別回収のケーススタディについて

委員 輸送において、25tトラックを使用する試算は、現実的でない。

事務局 車両の重量を含めた総重量が25トン車なので、おおむね10トン車。しかしながら10トン車でも、いくら圧縮しても積みこめるのは6トン。

事務局 保管積みかえ施設建設費用とランニング費用を別にして、直接25トン車で持っていったという仮定で、コストを計算している。

委員 最大のコストは、一次収集だと思う。

事務局 確かにそのとおり。集めてからのコストだけで整理してある。分別回収する費用を、モデルとして検証すると、排出者である区民の協力度合いによって、コストが左右される。その辺も含めて、検証をした上で数値を再度出す。

委員 関連して。今回13年度の予算が成立し、平成13年度予算の中にプラスチックのモデル回収事業がある。2,000世帯を対象に廃プラスチックのモデル回収を行う。2,000世帯というものが決まっている以上、回収方法などもある程度想定をして、予算化されていると思う。

事務局 今年度予算で、366万円。モデル回収事業の目的は、区民の方の分別収集協力度、再資源化がどの程度できるのか検証することにある。

再資源化作業施設について、容り法に乗せるためには、中間処理が必要。ペットボトルの中間処理施設はあるが、それ以外の中間処理施設はない。今年度の再資源化処理を1キロあたり50～65円で委託をする。

委員 再資源化処理1キロあたり50～65円は高いのか安いのか？資料-1の「プラスチックの分別収集自治体の事例」にある自治体が一体どれぐらいの額だとか、集めた後、一体どこへ行って、どういうふうに処理されているのかというのが分からない。

事務局 コストは120円ぐらい。

この資料は指定法人の資料。指定法人に引き渡すという前提になっており、指定法人ルートで全部マテリアルリサイクルしていく。

座長 データとして後からまた補足するものができたら、各委員にお届けしてください。

プラスチックの分別収集自治体の事例

座長 資源化のためにプラスチックの分別収集している自治体はどのぐらいあるのか。全国の自治体で、どのぐらいの割合でプラスチックを行政収集しているかによって、プラスチックの扱い方の易しさ、難しさがわかる。

委員 プラスチックをどうしたらいいかということを考えるときに、幾つかの技術ということで、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル、直接燃焼技術、燃料化技術などいろいろある。どの方式が一番社会的なコストなどを考えた上で、一番いいのか。環境に対してどうなのかということを考えて、どの方法がいいのかということを考えたいと思う。

委員 「環境問題としての脱焼却を目指す」とあり、「脱焼却」というのは、どういうことですか。

座長 プラスチックの処理・処分を考えていく上で、燃やさないということ、埋め立てしないという2つが、通常の場合の行政目的で挙げられる。

委員 『『自区内処理』から、さらに一步踏み込み『自己完結型』』とある。自己完結型というのは、これは全部終わってしまうということ。そうすると、今まで議論になったプラスチックは、処理の仕方が難しくなってくる。焼却したほうが、自己完結に近いことになるが、「自己完結」となると、一段とプラスチックの処理が難しくなってくる。自己完結型と燃やさない(脱焼却)とでは、矛盾している。

座長 従来の中間処理施設をつくるときには、「自区内処理の原則」といって、一般的に言われていることは、ごみの排出元で、そのごみを処理していくこと原則としている。その処理というのは、従前の考え方という焼却処理だった。地域で処理することを「自区内処理の原則」と言っているとすれば、資源化も含めて、ごみの処理・処分まで含め、ゼロエミッションに近づくことを目標としている。そういう考え方で地域完結型という言葉を使っている。

委員 不燃ごみはどうするのか。不燃ごみは自己完結にならない。

座長 環境問題としてプラスチックを考えていく上で、3つの考え方がある。

環境問題を考えていくとすれば、処理施設として脱焼却を目指すため、ほかの道を考える。最終処分場の負荷を、少なくしていくことが目標であれば、焼却を考えなければならぬ場合もある。廃プラスチックの資源化技術が飛躍的に進んでいくのであれば、さらに資源化に取り組み、プラスチックの問題を考えていくべき。

座長 プラスチックの処理をコスト面から考えると、一番安くて簡単なのは、区内に清掃工場を持っている杉並では、焼却となる。最新の清掃工場を持っているのだから「プラスチックを燃やしたらいいじゃないですか」ということを審議会の考え方として言っても問題がない。

「完結型」というのは、杉並区は埋立地を持っていない以上、輸送や埋立ての負荷を考えると、プラスチックを焼却するという考え方も出てくる。

しかし、プラスチックの処理については、リサイクル技術も進んでいるのだから、燃やさなくても、資源化を杉並区の方針として考える必要もある。

事務局 清掃工場にて、プラスチックを燃やせるといふ、技術的なデータはある。ただし、限りある資源である以上、リサイクルをしないとしない。これがまさに諮問

した基本的な問題で、将来の問題にかかわってくるものであり、審議会にて議論していただきたい。

委員 太田第2工場では、中継所に集まってきたごみの一部を燃やしている。杉並工場もバグフィルターを設置している。杉並区は、有利な工場も持っているにもかかわらず、プラスチックは燃やしてはいけない。

溶融の問題、埋立ての問題も、この委員会の中でどの程度まで将来を見越して計画を立てているか、その辺のところを踏まえながら計画を立てるべき。

座長 埋立てとは、不燃ごみと焼却灰。焼却灰を減らすために溶融をして、スラグ化して、資源化で、灰をなくそうという考え方。灰をエコセメントの材料するなど、さまざまな考え方がある。

そういう枠組み・注文がない状態で、審議会が走り出したものだから、プラスチックの処理を考えるには、技術検証には専門家のアドバイスも必要となってくる。

委員 区民の声を聞くと、環境問題への意識が高い。意識の高まりとともに、リサイクルへの意識も高くなってきた。行政はPRをして、ごみの発生抑制をしていくことが必要。

リサイクル費用を区の税金で全部負担すればいいとは思わない。区民の努力によって、少しでもコストを低くしていく考え方が今度の一般廃棄処理計画の中に盛り込まれていくべき。

座長 区民の協力に対しての、ご褒美が見えない。プラスチックを減らしたら、焼却量が減り経費が浮くから、その分が一般財源として使えるとか、そういう見返りが見えない。

委員 マテリアルリサイクルとして利用できるのは、ほとんど純粋なもののみ。プラスチックのごみの中でその条件を満たすのは、ペットボトルと、ごく一部のポリエチレンボトル

委員 コストは別として、ペットボトルだけ収集すれば、環境的な意味でメリットがある。

委員 ペットボトル以外のプラスチックをさらに分別することは困難。それを区民に、「環境に優しい」とか、「循環型社会、資源を大切に作る」というような名目でさらに分別するなんて言ったら、区民は納得しない。

委員 杉並の工場は、プラスチックを燃やしても大丈夫、ダイオキシンも大丈夫、埋立ても大丈夫だというすばらしい工場である。それならば残りの問題は、コストの問題と 住民の意識の問題。

委員 集積場でペットボトルを回収しているところは少ない。多くの区民は、ペットボトルを不燃ごみの中に入れてしまう。容り法でペットボトルを回収するとしている以上、ペットボトルだけでも徹底的に、全量回収するべき。このような現状の中で、「ペットボトル以外のプラスチックを分別して出してください」と言ったら、区民の感

情を逆なでし、燃やしたほうが良いということになるかもしれない。

委員 ペットボトルの回収拠点を増やすことには疑問をもっている。行政が収集すると、税金がかかる。しかし、ペットボトルの収集は、スーパーやコンビニが独自でやっていると思っている区民が多い。その情報が区民に伝わっていない。なるべく税金のかからない方法で収集すべき。

座長 プラスチックの分別収集の問題は、財政の問題、区民の協力の問題ということになる。ゼロエミッションに向けて、資源循環型社会をつくるならば、業界に任せないで、区が独自に品質のいい廃プラスチックを集めるべき。そして、資源への流れを作るべき。

座長 杉並区でできることは、区民協力が得られれば、プラスチックの中で資源化に適したのペットボトルとトレイを、完全収集すること。

委員 以前、古紙の値段が暴落したら、ごみの中に古紙が大量に入ってきたことがあった。このよう事態には、手間になるぐらいのものを税金で賄ってやらないと、ほんとうの資源回収には持続されない。

委員 発生抑制ということを年中聞いているが、そこにつながらない。審議会からの意見として、区のほうから区民あるいは業界に対して、物の値段の中に生産コストと流通コストだけじゃなくて、処理費用も含めた値段にして売ると意見書を出してほしい。そういうことを提言していかないと先に進まない。

座長 循環型社会をつくっていくためには、容り法ができているのだから、それに乗りましょう。それに乗ったらこれだけ金がかかりますよというところまで伝えないと、区民意識は変わらないかもしれない

事務局 現状として、ペットボトルの回収拠点が、現在は 300。ペットボトルの総排出量は推計上で 2,200 トンぐらいあり、収集されているのが約 350 トンで、15%となっている。現在の回収量では、ごみ量の減少、資源化という話には遠く及ばない。

座長 審議会という場を使って、ほんとうは金がかかっても、あるいは手がかかっても、集めたい。そうすれば資源化できる。目標値が 15%から 50%ぐらいまで上がる。そういうことを提案してほしい。